

<h1>指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 令和3年10月発行</p>	<h2>特別支援教育 第211号</h2>	
	対象 校種	特別支援学校



重複障害のある児童生徒の教科指導について

自立活動を中心とした教育課程で学ぶ重複障害のある児童生徒の教科指導については、目標や内容の設定の在り方について難しさを感じている教員も多い。本稿では各教科の指導内容の取扱いや自立活動との関連について述べ、特別支援学校の教科別の指導の実践例を紹介する。

1 特別支援学校における各教科等の取扱い

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）（以下、小中学部学習指導要領）及び特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）では、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科について段階ごとに目標及び内容が示された。これは、小学校や中学校の各教科の目標及び内容との連続性を確保する観点から、小学校及び中学校の各教科の目標及び内容を参考に、知的障害の特徴及び学習上の特性等を踏まえ設定されている。また、「各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。」とされ、特別支援学校で学んでいる児童生徒が各教科等を学ぶことの重要性が改めて明記されている。

2 重複障害のある児童生徒の教育課程

重複障害のある児童生徒の教育課程については、小中学部学習指導要領第1章第8節に示された「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の中で、障害の状態に応じた教科の

特別な取扱いに関することや、特に必要がある場合には自立活動を主として指導を行うことができるといった規定が示されている。しかし、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編第2章第8節3（2）には「障害が重複している、あるいはその障害が重度であるという理由だけで、各教科等の目標や内容を取り扱うことを全く検討しないまま、安易に自立活動を主とした指導を行うようなことのないように留意しなければならない。」と示されている。このように個々の児童生徒の実態に合わせて可能な限り各教科等の内容を取り扱うことが求められていることから、重複障害のある児童生徒の教科指導の在り方について述べる。

3 重複障害のある児童生徒の教科指導に関する現状

令和2年度県総合教育センターの長期研修者が行った「自立活動を主とした教育課程の児童生徒の各教科の取組状況に関する調査」（令和2年7月実施、対象：自立活動を主とした教育課程を設定している県内の特別支援学校13校の担任等187人）の結果は、次のとおりである。

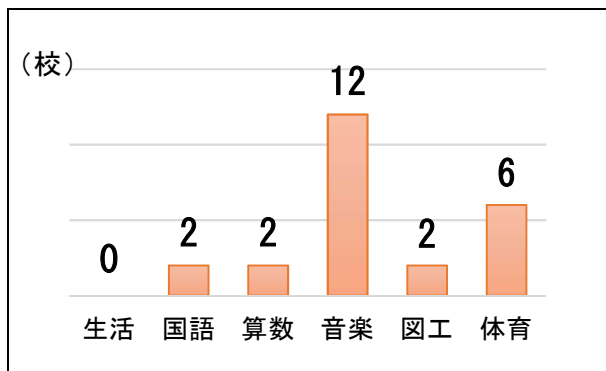


図1 教科別の指導を設けている教科
(小学部通学生13校)

図1より、教科別の指導を設けている教科にばらつきがあることが分かる。教科ごとの時間を設けて指導を行っていない教科については、各教科等を合わせた指導の中で取り扱っているが、各教科の位置付けや含まれている時数の設定については曖昧になっているという学校もある。また、知的障害の各教科の小学部1段階の内容の中に重複障害のある児童生徒が扱うことのできる内容が含まれているが、その一方で各教科の指導目標や指導内容の設定が難しいと感じている教員もいる。

4 各教科の内容の取扱いの検討

重複障害のある児童生徒は、個々の障害の状態が極めて多様であり、発達の不均衡が大きい。前述の調査（令和2年度長期研修研究報告書「『できることが増えた。』を実感する重度・重複障害児の教科指導」p.11）の結果では、「重複障害のある児童生徒に各教科の内容を取り扱うことは難しい」と感じている教員も多い。しかし、小中学部学習指導要領には、知的障害の各教科の小学部1段階については「知的発達が極めて未分化であり、認知面での発達も十分でないことや、生活経験の積み重ねが少ないことなどから、主として教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をもったりすることや、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをねらいとする内容を示している」とあり、実

際、その内容の中には表1にあるように、乳児期の発達状況と関連の大きいものが設定されている。そのため、重複障害のある児童生徒であっても、学習内容として設定できる項目もあることから、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小・中学部）に示されている各教科の内容を参考に、個々の実態に基づいて取り扱う指導内容を設定していく必要がある。

表1 小学部1段階の内容と「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」の発達段階との関連

小学部1段階の各教科の内容	発達段階
生活1段階エ（ア）： 身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぶこと。	イナイナイバーを喜ぶ（6-7か月） 身振りをまねる（9-10か月）
国語1段階アイ：	あやすと声を出して話し掛けに注目する。
算数1段階Aア：	おもちゃを見ると活発になる（3-4か月）
体育1段階ア：	つかまり立ち（9-10か月） 身振りをまねる（9-10か月）

そこで、小学部1段階の各教科の内容を基にした、実際の指導の例を表2に示す。

表2 小学部1段階の各教科の内容を基にした実際の指導の例

生活	<ul style="list-style-type: none"> ア基本的な生活習慣（ア）：簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動すること。 → 食事前の手洗いや歯磨き等 サ生命・自然（ア）：身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 → 屋外での学習や自然体験活動等
国語	<ul style="list-style-type: none"> [知識及び技能] ア（ア）：身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 → 読み聞かせ等

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ [知識及び技能] ア(イ)：言葉のもつリズムに触れたり、言葉が表すイメージに触れたりすること。 → 関わり遊び等 ・ [思考力・判断力・表現力等] A聞くこと・話すことイ：身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 → 朝の会等でのやり取り等
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ A数量の基礎ア(ア)⑦：具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 → 物を介した教師とのやり取りやペープサートの鑑賞等 ・ A数量の基礎ア(イ)⑦：対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。 → 操作活動や提示物への注目等
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ A体づくり運動あそびア：手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。 → ふれあい体操等 ・ B器械・器具を使つての遊びウ：簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使つての遊びをしようとする事。 → セラピーボールを使った活動等 ・ G保健ア：教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。 → 口腔ケアの取組等

5 自立活動との区別や関連の整理

自立活動として指導を行っている中に各教科の内容が含まれていることがあるため、重複障害のある児童生徒の教科指導について検討していく際には、教科指導と自立活動の指導との関連について整理を行う必要がある。

例えば、「型はめ」や「マッチング」については、算数科の1段階A数量の基礎「具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。」や「分割した絵カードを組み合わせる事。」等の内容に該当する。「型はめ」や「マッチング」の学習を自立活動の指導内容として設定した場合、自立活動の6区分27項目の中のどの項目を関連付けて導き出した指導内容なのかを説明す

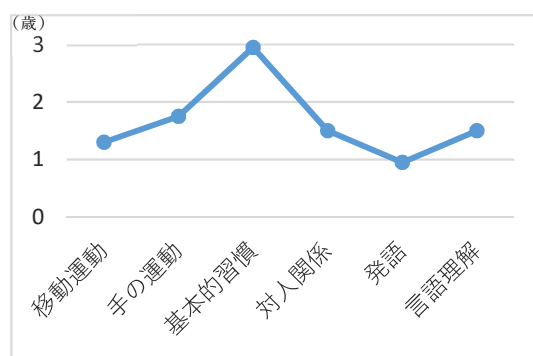
る必要があるが、「型はめ」や「マッチング」は学習指導要領に各教科の内容として示されているため、算数科(中学部、高等部では数学科)の指導内容として設定することで、根拠が明確になる。自立活動は「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」ものであることから、この場合には、算数科における「マッチング」や「型はめ」の学習に児童生徒がより取り組みやすいようにするために、「見る力や手指の巧緻性を高める指導」を自立活動の指導内容として設定することが考えられる。

6 実践例

県内の特別支援学校における重複障害のある児童の教科指導の実践例を紹介する。これは、学習指導要領に示されている教科の目標・内容を基に、指導者がより具体的な学習内容を設定し、教材の段階を細分化してねらいを達成できるようにした実践である。

<児童の実態>

- ・ 小学部6年
- ・ 言葉による意思表示は困難だが、指差し等で伝えようとする事ができる。
- ・ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査の結果



基本的習慣を除く項目は概ね1歳から2歳程度の発達段階である。

<教科、題材名及び目標>

- ・ 教科：国語科
- ・ 題材名：「枠の中に書いてみよう」

- ・ 目標：捉えやすい枠の中に書く課題を通して、「どこに書けばよいか」が分かり、紙の枠の中に線を書くことができる。

＜本題材で取り扱う学習指導要領に示されている小学部1段階国語科の内容＞

- ・ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ることを。
- ・ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ることを。
- ・ 文字に興味をもち、書こうとすること。

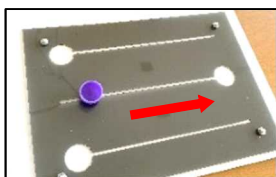
＜指導の実際＞

1 方向や始点・終点の学習

- ・ 輪抜き課題
[立体, 左右]



- ・ スライド課題Ⅰ [平面, 左右]



つまみ部分を持って、矢印方向に動かし、上方向に抜き取る。[左右の動き]

- ・ スライド課題Ⅱ [道具使用]



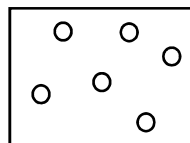
先端にねじの付いた筆記具を模した道具を持ち、ナットの穴にねじを差し込んでから矢印方向に動かす。[筆記具を動かすイメージづくりと始点の意識付け]

2 補助シートをヒントにして紙の円の枠内に鉛筆で線を書く学習



紙の上に補助シートを乗せて、円の枠内に線を書く。補助シートの枠が鉛筆を動かす際に引っ掛かり、枠を意識しやすくなる。プラスチック板のような厚みのある材質から、段階的に薄いラミネートシートに替えたり、色のコントラストを替えたりして難易度を調整する。

3 補助シートなしで枠内に鉛筆で書く学習



紙が動かないように固定した上で、補助シートなしで円の枠内に線を書く。

＜評価＞

- ・ 枠内に鉛筆の先を置いて、書き始めることができるようになった。
- ・ 線のはみ出しがあるなど、巧緻性の課題はあるものの、補助シートがなくても、枠内を意識した線を書くことができるようになった。

7 おわりに

本稿では、重複障害のある児童生徒の各教科の取扱いの検討に当たっての留意点や自立活動との関連、具体的な指導について紹介した。学習指導要領に示された趣旨を踏まえ、重複障害のある児童生徒の教科指導について、各学校での検討や実践の充実に取り組んでもらいたい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』平成29年4月
- 文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』平成31年2月
- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則編（小学部・中学部）』平成30年3月
- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）』平成31年2月
- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』平成30年3月
- 厚生労働省『子どもの心の診療医の専門研修テキスト』平成19年3月
- 遠城寺宗徳『遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法』2009年6月

（特別支援教育研修課 古村 洋介）